

「平戸島の文化的景観」国選定15周年を迎えて

平戸の大切な風景 ～重要文化的景観の今～

圃文化交流課文化遺産班 ☎22-9143



安満岳の参道



宝亀教会へ続く坂道

木ヶ津湾に浮かぶ沖ノ島



獅子のアコブ(市指定天然記念物)



飯良の浜

獅子の風景



安満岳

私たちの先祖が住むようになって以来、平戸島に点在する集落は、多くの苦勞を伴いながら切り開かれ、世代を超えて守り伝えられてきました。こうした営みの重なりは、その地を何気なく通り過ぎようとする私たちの目に留まり、心に深く刻まれる景観となります。

平成22年2月22日(平成22年8月5日に追加選定)、これらの景観の中でもとりわけ重要な価値があると評価された春日町、獅子町、根獅子町、宝亀町、飯良町の全域と主師町、坊方町、下中野町、大石脇町、木場町、迎紐差町の一部の計1千455.2ヘクタールが、国によって重要文化的景観「平戸島の文化的景観」に選定されました。選定から15年。ここでは、重要文化的景観の一部や、守り伝える皆さんの営みを紹介します。

春日地区

～受け継がれてきた棚田景観～



春日地区

平戸島の西岸。安満岳の尾根に囲まれた谷間に流れる川に沿って、山合いから海辺まで連なる春日地区の棚田。

この棚田の連なる様子は江戸時代の絵図などにも見られ、世代を超えて受け継がれてきた景観は、「つなぐ棚田遺産」にも選ばれています。

春日地区に自動車が行き交うことができる道が整備されたのは昭和40年代で、昭和57年に路線バスで紐差まで行くことができるようになりました。それまでは、隣の高越地区へ行く際にも細い山道を登り降りしなければならず、子ども

もたちも小学校4年生からは山道を通って獅子の学校まで通学していました。(小学校3年生までは分校)

そんな春日地区では、それぞれの家庭で小さな船を持っていて、ワカメ漁や潜水漁をしたり、橋のなかった当時の生月島へ商売や買い物に出る

いました。当時の生月島は、まき網漁業で繁栄し、人も多かつたそうで、春日地区の山から焚き木などを切り出して生月島へ売りに行くこと、岸に着いた途端に飛ぶように売れたとのこと。また、ワカメやアワビなど

魚介類も豊富で漁業収入も多く、家を大きく立て替えた増築した人もいたそうです。狭い谷間に広がる棚田は、春日地区の美しい景観の特徴

になっていますが、決して広いわけではないため収穫量が少なく、複雑な地形から手間もかかりました。

このように苦勞が多い棚田でしたが、生月島で売れる焚き木や、ワカメ漁、潜水漁での収入が多かつた時期でも、先祖から受け継いだ特別なものとして大事に耕してきたそうです。



春日の棚田と夕日



豊かに実る棚田米



春日集落案内所「かたりな」案内人の寺田賢一郎さん

世界文化遺産「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の構成資産に選定された現在、11月のイルミネーションの時期は、春日地区の美しい景観を見に来る人たちを迎えようと、米作りの時期でないにもかかわらず、地域の皆さんが総出で頑張っています。

獅子地区

〜地域でつくる伝統のおくんち〜



石塀の連なる風景



獅子地区

ひらけた棚田や丘の上の牧野、路地にせり出す石塀の民家が連なる景観が特徴の獅子地区。

10月17・18日は、獅子地区の若宮神社のおくんち。獅子地区の氏神社である若宮神社は、寛永2年(西暦1625年)に、現在の紐差の沖ノ島にある三輪神社から神様を迎えて祀った神社とされています。(獅子村郷土誌) 昨年10月17日、昼過ぎから神社で神楽が奉納されました。夕方からの直会では、20日に沖ノ島の三輪神社のおくんちで奉納しようと準備し

ていた注連縄(しめなわ)に対して「格好悪いよ」との指摘が…。

ベテランのアドバイスのもと、消防団などの若手の皆さんが1度ほどいて一生懸命に作り直し、完成のころには午後10時を過ぎていました。18日は朝からおくんだり。若宮神社から神輿(みこし)行列が地域を回り、獅子ふれあい会館に向かいます。獅子ふれあい会館では、神輿が到着すると、祝詞(のりと)が唱えられます。祝詞に続いて神職による平戸神楽です。真剣を使った「二剣」など、大迫力の舞も奉納されました。



おくだりの様子



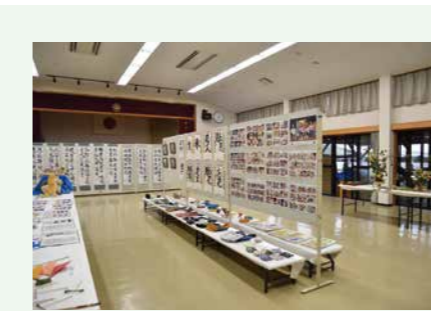
注連縄を作り直す皆さん

ふるさと作品展

獅子地区独自の楽しい作品展。10年以上続いています。

獅子ふれあい会館では、お年寄りから保育園の子どもたちまで、地区の皆さんが思い思いに作った書画や生け花、工芸品などが展示されます。

また建物の外では、腕自慢の皆さんの豚汁作り、餅つき、ハンバーガーや焼き魚の販売などで盛り上がる、賑やかで和気あいあいとした作品展です。



根獅子地区

〜逆境を好機に変えた先人に思いを馳せて〜



根獅子の浜

視界いっぱい青空ときれいな海が広がる根獅子地区。根獅子の浜は、「日本の水浴場88選」や「快水浴場百選」に選ばれています。

また、切支丹資料館では、かくれキリシタンの殉教地や16世紀の教会伝承地など、地域の歴史を伝えています。見晴らしの良い棚田で、稲を手刈りする川上茂次さん。「農村風景は人間が勝手に自然に手を入れて作ったもの。人間には景観を守る責任がある」と、景観を守る大切さを多くの人に伝えてきました。景観を彩る棚田については、「棚田は貧困の証」

平野があるならそつちの方が良い」と語ります。

川上さんの棚田は、お爺さんが山肌を切り開いて広げたもの。出てくる石を1つずつ積んだ高低差5メートル近い石垣は、田面の下の裏栗石(うらくりいし)としても頑丈です。このような先人たちの苦勞の積み重ねで耕作面積は広がりましたが、それでも限界があり、経済的には苦しかったそうです。

現在では、厳しい環境を逆手にとり、有機農法などで付加価値を付け、販売方法を工夫することで、多くのファンに愛されるようになりました。



稲刈りする川上さん



川上さんの棚田からの眺め

おろくにん様

旧暦8月26日は殉教者「おろくにん様」の命日とされ、切支丹資料館そばの「大石脇の森」の隣では、かくれキリシタンの信仰を続けている皆さんが、この日に合わせてお参りしています。

近年では年に1度の顔を合わせる機会。お参りの後、みんなで持ち寄った煮しめなどをつまみながらの直会では、久しぶりの話に花が咲きました。



宝亀地区

高台の赤レンガ教会は地域の誇り

平戸瀬戸を見下ろす高台に建つ宝亀教会堂。明治31年(西暦1898年)3月18日に落成した教会堂です。入口の部分はレンガでできており、アーチやバラ窓風の装飾が配される玄関は、伝統的かつ典型的な教会堂の形ですが、十字架の下、3連アーチ装飾の中央にあしらわれた「天主堂」の文字は、建てられた当時の歴史



宝亀教会

史をそのまま留めているようです。

宝亀教会堂は、明治20年(西暦1887年)に紐差に着任したマタラ神父が、明治30年ごろに自ら指導監督して建設にかり、大型船で運び込まれた重たいレンガや材木などを宝亀の信者たちが背負って浜から運びました。

なおこの建設工事には、紐差の信者たちも協力したそうです。

また、教会堂を美しく装飾する漆喰は、住民が総出で貝殻を拾い集めて焼くなど、地域のみんなで協力しました。

地域の人たちの手作りで建てられたぬくもりを感じる教会堂は、宝亀の景観の象徴的存在です。



教会の丘から眺める宝亀地区



宝亀漁港

沖ノ島三輪神社

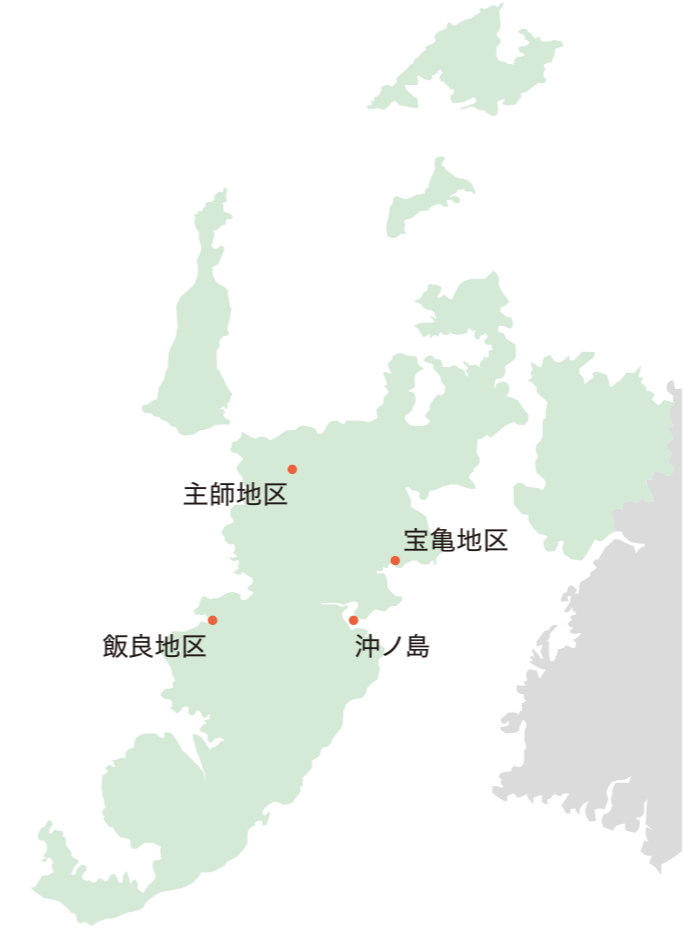
木々の声に耳を澄まして

木ヶ津湾に浮かぶ沖ノ島には、三輪神社という古社が鎮座しています。毎年10月20日に秋季大祭が行われ、重要な文化的景観の中の宝亀町や春日町、獅子町、根獅子町からも地区の代表者が参拝に訪れます。

沖ノ島は、長崎県指定天然記念物「平戸の沖の島の樹叢」にもなっており、大祭は、吹き抜ける風や森のざわめきに朗々と響く祝詞や神楽が合わさり荘厳な雰囲気になります。



三輪神社の鳥居



飯良地区

子どもたちの懐かしの場所を活かして

美しい砂浜に吹き付ける強い風から家を守るため、石積みや防風林に囲まれた、風情溢れる飯良地区。かつては数軒の店もあった目抜き通りに住む富村まゆみさん。飯良地区が賑やかだったころ、2階建て家屋の1階では雑貨屋を、2階ではそろばん教室を家族が営んでいました。夕方、そろばん教室が始まる前には、

子どもたちがお菓子を買い、友達と楽しく過ごしていました。昼間は、大人のたまり場で、買い物ついでに世間話をしていたそうです。富村さんのお母さんもおしゃべりに加わったり、字の読めない買い物客に、生活にかかわる情報などを代わりに読んであげたりしていたそうです。

今では過疎化や高齢化が進み、店に子どもたちの姿はなく、大人の買い物客も少なくなりましたが、富村さんは、飯良地区に恩返しできたらと、重要な文化的景観の修理修景事業で建物を修理し、可能な日だけ営業する形で店を続けています。

今後は、カラオケを置いたりして、地区の皆さんと一緒に楽しめる場所にしたと考えているそうです。



防風林の連なる小径



かつてのそろばん塾と小店



お店を営む富村さん

主師地区

安満岳を守りたいと祈る人の輪

安満岳は、地元で「安満岳様」と呼ばれ、厚い信仰を集めてきました。山頂には、神仏習合の時代から続く古社、白山比賣神社が佇んでいます。近年では、地元の人たちの高齢化が目立ち参拝者の数が少なくなっていました。世界文化遺産の構成資産になったことで、文化財としての価値が見出されました。

参道の脇に、かつて神社を守っていた西禪寺の庭の池が残っています。近年、中野地区まちづくり運営協議会では、一部の人のしか知られていなかった、絶滅危惧種であるカスミサンショウウオが繁殖していることに注目し、年に1度、地域の皆さんやボランティアを集めて掃除をすることにしました。

作業の際は、安満岳休憩所で休憩や昼食をとり、集まった皆さんで親睦を深めています。

この活動も今年で3年目。白山比賣神社の宮司を務める本山貢さんは、これをきっかけにSNSなども活用して人の輪を広げ、世界遺産の構成資産になっている文化財にも関心を持ってほしいと話します。



安満岳山頂からの眺め



清掃前のお祓い



池の清掃活動